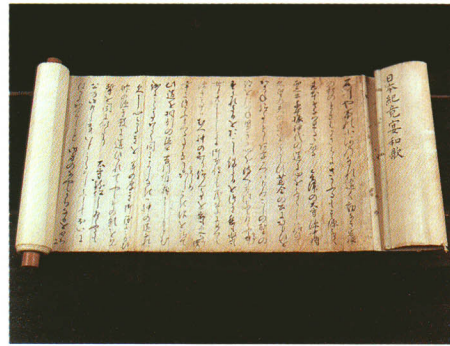


至福をもたらす鳳凰が この町には住むという



町重要文化財

日本紀竟宴和歌（一巻）

会津藩主保科正之公が寛文十年八月十七日に、城内で家臣や領内の神官などを集め、服部安休に「日本紀神代巻」を講義させ、この内容をもとに各人に和歌や漢詩を詠じさせたもの。会津四社に奉獻した中で、伊佐須美神社のものだけが現存しています。

国重要文化財

朱漆金銅装神輿

室町期の作といわれ、

大永六年（一、五二六）

八月、高田館主菅名盛安

公、盛常公父子が寄進し

たと伝えられています。

屋根は銅板葺、

正面は朱漆金

銅扉で、芦名

家の縦二つ引

紋が打たれ、

さらに左三ツ巴紋が付し

てあります。また、まわ

りの高欄は金銅で、四方

に階段を備え、階下に金

銅の鳥居が立てられています。

このような構造は

神輿の中でも逸品といわ

れています。



町重要文化財 黄金扉（一枚）

旧社殿の奥深く、齋きまつる御本殿の扉であつたらうと推測されています。黄金をちりばめた金色燦然と輝く格調高い扉です。



町重要文化財 古代扉（一枚）

全面に朱漆を、中央に潤達な椿文様を施した扉。内陣に用いられたものと伝えられています。

県重要文化財 木造狛犬（一对）

室町時代に作られたものと考察されます。高さ九十七センチメートルの寄木造り、漆塗りで長い間宝蔵の中に解体同然の姿で納められていたものを復元。大きさをかといって、呵、吽（あうん）の狛犬としては大きく、全国でも希有のものとされています。

